

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は創立104年の歴史の中で、地域に親しまれ地域で活躍する人材を数多く輩出してきた。  
生徒一人ひとりと丁寧に向き合い、確かな学びをサポートして、社会に貢献する生徒を育成する学校をめざす。

- 多様な進路を志す生徒の夢をかなえるため、確かな学力の育成を通して、飽くなき向上心と柔軟な自己教育力を持った生徒を育てる。
- 生徒指導に力点を置き、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努め、将来の社会人として自立できるよう生徒を育成する。
- 生徒が互いを認め合い、多様な人々と協働して物事を成し遂げるなど、持てる力を最大限に発揮できる安全で安心な教育環境を構築する。
- 生徒一人ひとりが自信と希望を持って学校生活を送るよう、学校行事や部活動をはじめ、「成功体験」を感じることができるよう教育活動を展開する。
- 地域に支えられてきた本校のたすまいを大切に、学校情報の発信に努め、家庭や地域住民、中学校や大学との連携を深め、地域に本校の応援団となっていた  
だけよう、開かれた学校づくり、社会に開かれた教育課程を進める。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

## (1) 「わかる授業・できる授業」をめざした学びの充実の取り組み

- ア 「主体的・対話的で深い学び」や観点別評価の実践の視点から、授業改善に向けた教員研修、研究授業の充実に努める。  
イ ノートパソコンやタブレット、プロジェクト等のICT機器等を活用した授業充実を進めると共に、オンライン授業の実践の研鑽にも努める。  
ウ 指導と評価の一体化を意識して、教科ごとの学力の到達目標と達成へのロードマップを策定し、1年から目標をもって授業に取り組む姿勢を育成する。  
※授業アンケート中の授業に対する評価に占める肯定的回答の割合を、令和5年度に87%をめざす。(H30:82% R1:83% R2:84%)  
※学校教育自己診断で、「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を、令和5年度に80%をめざす。(H30:68% R1:75% R2:76%)

## (2) 積極的な進路選択のための確かな学力の育成

- ア 「総合的な探究の時間」を教育活動の柱として充実させると共に、教科横断的な取り組みの実践など、生徒の進路希望に応えるようカリキュラムの充実を図る。  
イ 教育産業による基礎学力検査や英語検定などの各種検定試験の校内実施や、多様な技能試験の紹介などを積極的に行い、学習の具体的な目標設定を誘う。  
※外部検定試験での受検者数と合格率を、令和5年度にのべ1000名、平均40%をめざす。  
(H30:漢検24名8%, N検18名89%, のべ42名43% R1:漢検167名26%, N検43名70%, のべ210名35% R2:漢検527名17%)

## 2 生徒の進路実現の支援

## (1) 進路指導体制の確立と進路実績の向上

- ア 生徒の多様な進路希望に対応できるよう、3年間を見通した進路計画のもと、進学講習や資格取得に向けた指導も含めた進路指導体制を確立し実践する。  
イ 進路希望実現率の向上を図る。 国公立や難関・中堅8私大へ、令和5年度に12名の現役合格をめざす。  
10年先を見据えた人生プランを想起させ、キャリア形成の一步として、高校卒業後の個人個人の進路希望実現100%をめざす。  
※学校教育自己診断で、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答する生徒の割合を、令和5年度に90%をめざす。(H30:63% R1:77% R2:84%)  
※学校教育自己診断で、「自分なりの目標を持って授業に臨んでいる」と回答する生徒の割合を、令和5年度に80%をめざす。(H30:61% R1:61% R2:66%)

## 3 生徒の活動の活性化及び基本的な生活習慣・規律・規範の確立と働き方改革

## (1) 特別活動や生徒会活動を通じた成功体験による自己肯定感の育成

- ア 教科指導やクラス活動等で多様な他者と協働する機会の積極的な創出や、興味関心を同じくする集団での目標達成に向けた活動の充実など、生徒の活動の幅を広げる。  
※生徒の部活動加入率を、令和5年度に65%への復帰をめざす。(H30:64% R1:56% R2:56%)  
※学校教育自己診断で、生徒の学校行事満足度を、令和5年度に80%をめざす。(H30:76% R1:73% R2:76%)

## (2) 生徒の基本的な生活習慣の確立、規律・規範意識の醸成、課題を抱えた生徒への支援体制の強化

- ア 生徒にマナーとルールに関する意識を徹底し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。  
イ 不登校生徒や様々な困難を抱える生徒に対して、保護者や中学校、関係機関等と緊密な連携を図ると共に、SCやSSW等と連携して教育相談・支援体制を充実させる。  
ウ お互いを認め合い、尊重し、支え合う人間関係づくりを通して、安全で安心な教育環境を構築する。  
※学校教育自己診断で、「本校の指導は適切で納得できる」と回答する生徒の割合を、令和5年度に65%をめざす。(H30:57% R1:51% R2:55%)  
※学校教育自己診断で、「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」と回答する生徒の割合を、令和5年度に65%をめざす。(H30:63% R1:57% R2:58%)

## 4 地域連携の推進

## (1) ホームページ等を通じた教育活動についての積極的な発信、地域社会の一員としての地域の様々な取り組みへの参加・貢献

- ア ホームページや学校説明会・中学校訪問を通して渋谷高校の教育内容の広報に努め、「行ける学校」から「行きたい」学校づくりをめざす。  
イ メールマガジンの充実を努め、教育活動について保護者との連携を強化する。  
ウ 近隣の小・中学校や関係機関・団体との連携をさらに深めつつ、教科指導やボランティア活動、生徒会、部活動等での地域行事への参加を進める。  
※学校教育自己診断で、「教育活動を通して地域の人々と関わる機会がある」と回答する生徒の割合を、令和5年度に65%をめざす。  
(H30:47% R1:46% R2:48%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>29項目中25項目で、肯定的な回答の割合が増加した。特に「学校行事は楽しい」(8.7%増)、「部活動は楽しい」(8.1%増)や、「家で学校の様子や友達の話をする」(6.5%増)、「学校からの連絡を保護者に伝えている」(6.1%増)など、コロナ禍でも学校生活を楽しみ、家庭内での会話も増した事は好ましい結果といえる。</li> <li>一方で、「一人一台端末を効果的に使っている」(10.3%減)と、昨年度はICT機器全般の活用状況だったので一概に比較はできないが、課題は残る。また、「進路情報をよく知らせてくれる」(8.7%増)に対して、「卒業後の進路は決めている」(4.3%減)となっており、選択肢の広がりやの自覚とも、コロナ禍での精神的な成長の遅れともとれることから、見極める必要がある。</li> </ul> <p><b>【保護者結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続した26項目中21項目で、肯定的な回答の割合が増加した。特に「進路指導等の情報提供の努力をしている」(5%増)、「ホームページを見たことがある」(1.8%増)など、オンラインによる情報発信をしてきた成果といえる。また、「人権の大切さを学んでいる」(4.4%増)、「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を養っている」(3.9%増)は、SNSにおける人権侵害等のトラブルに対する対応の蓄積と考えられる。</li> <li>一方で、「学校でどのように過ごしているか見たことがある」(3.8%減)、「学校行事に参加したことがある」(13.7%減)と、コロナ感染症対策で、ご来校いただける機会が制限されてしまった結果が顕著に表れている。</li> </ul>	<p>第1回学校運営協議会 令和3年7月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自習室の活用状況や1年生のクラブへの加入状況を教えてほしい。</li> <li>生徒のICT技量やタブレット使用、オンライン授業の実態を教えてほしい。</li> <li>教育課程や評価方法も刷新されるが、取り組みの方向性や手立てを教えてほしい。</li> </ul> <p>第2回学校運営協議会 令和3年11月18日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での学校生活で、ストレスや人間関係の構築に影響はでていないのか。</li> <li>講義形式の授業が多く、意見発表等の機会や気持ちの動くような授業の実践を望む。</li> <li>授業での「めあて」の明示など、目的について相互の共有が必要なのではないか。</li> </ul> <p>第3回学校運営協議会 令和4年2月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生にも分かりやすく高校の方向性を強く打ち出す必要がある。</li> <li>高大連携やキャリア教育に力を入れ、卒業後の展望を抱かせて欲しい。</li> <li>部活動の充実が一つの力ぎ、希望通りでなくても何かすることに意義はある。</li> <li>在校生の魅力や魅力を前面に押し出した広報活動を推進すべきである。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
確かな学力の育成	(1) 学びの充実 ア 授業研究・研修の充実	(1) ア 他校視察や授業公開を行い、「主体的で対話的な深い学び」や観点別評価の視点から授業の充実に取り組む。	(1) ア 授業の相互見学や他校への授業見学の機会を年間4回設け、参加者のべ100名をめざす。 ・授業アンケートの評価に占める肯定的回答85%以上。[84%] ・生徒向学校教育自己診断において「授業はわかりやすい」77%以上。[76%] ・観点別評価をテーマに、校内研修を4回実施。	(1) ア 2回の授業見学の機会やそれ以外も含め25名程度が見学実施、平均4時間。(△) ・授業アンケートの評価における肯定的回答85%(○) ・生徒の学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」80%で4%の増加。(○) ・観点別評価の研修は3回で終了。(△)
	イ ICT機器の活用	イ ICT機器の活用及び指導法研修等を実施し、授業改善をすすめる。	イ オンラインを活用した授業実践を、全科目で複数回実施し、年3回情報共有の機会をもつ。 ・ノートパソコンやタブレットを活用する取り組みを、全教員が複数回実施し、年1回情報共有する。	イ 臨時休校時から、オンラインによる授業を全教員で実践、自主研修も実施できた。(○) ・平時でも、タブレットの活用はされているが、全教員に向けた情報共有がまだ。(△)
	ウ 授業に取り組む姿勢の育成	ウ 授業に取り組む姿勢を育成するとともに、予習・復習など家庭学習の習慣づけを図る。	ウ 生徒向学校教育自己診断において「家庭での学習時間1時間以上」25%以上。[20%] ・授業のUD化やグループワークの手法の共有を意識した意見交換の機会を、年2回設定する。 ・教科ごとに3年間を見通した学びのロードマップを策定する。	ウ 生徒の学校教育自己診断で「家庭学習1時間以上」21%で目標にいかず。(△) ・UD化の必要性の合意や意見交換の場を設定することができなかった。(△) ・学びのロードマップが単年度になってしまい、3か年計画を年度末に再依頼した。(△)
	(2) 確かな学力の育成 ア 教育課程の充実	(2) ア 「総合的な探究の時間」を柱とした教育課程の充実。	(2) ア 「総合的な探究の時間」の3か年計画を策定し、検証の為に、年度末に実践共有の機会をもつ。 ・新しい教育課程をみすえ、他教科と連携する取り組みを、各教科1回以上実践する。 ・探究活動についての校内研修を1回実施。	(2) ア 3か年計画の骨組みはできつつあるが、実践共有の場の設定はできていない。(△) ・自教科の新課程のイメージも曖昧で、他教科との連携模索に至らなかった。(△) ・年度末に総括として情報共有。(○)
イ 検定試験の実施	イ 基礎学力調査や各種検定を学習の具体的な目標として活用する。	イ 各種検定の受験者数と合格率の増加。 [漢検 527名 17%]	イ 英検は受検できず、1年生の漢検のみの実施で終え、受検者232名、22%の合格。(○)	
進路実現の支援	(1) 進路指導体制構築と進路実績の向上 ア 進路指導体制の確立	(1) ア 3年間を見通した進路指導計画を策定し、学年と連携して実践する。 ・「総合的な探究の時間」及びLHRについて、3年間のキャリア学習の観点から検討・実施する。 ・進学講習を計画的に実施し、学習意欲の活性化につなげる	(1) ア 「総合的な探究の時間」等でキャリア教育を柱とした実践を、1・2年生共各15時間実施。 [1年・12時間、2年12時間] ・生徒向学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある」86%以上。 [84%] ・進学講習を1年間を見通して提示し、参加定着率40%以上をめざす。	(1) ア キャリア教育の実践時間は、1年生、7時間、2年生9時間と、減少してしまった。(△)
	イ 進路実現率の向上	イ 自習室を活用するとともに、基礎学力調査等の結果を弱点克服に活用できるよう、個人懇談等の充実を図る。 ・国公立や関西8私大現役合格 ・多様な進路希望の実現	イ 生徒向学校教育自己診断において「自分なりに目標をもって授業に臨んでいる」70%以上。 [66%] ・国公立や難関中堅8大学へ10名の現役合格。 [10名] ・第一希望とする大学等への合格率50%以上。 ・就職内定率90%以上 [95%]	イ 生徒の学校教育自己診断で「将来の生き方を考える時間がある」84%と維持した。(△)  ・夏季の短期講習では、参加率は8割近いが、通年講習では、4割いかない。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「目標をもって授業に臨んでいる」67%と微増。(△)  ・国公立や難関8大学への進学18名合格。(◎)  ・第一志望への合格率65%(◎) ・就職内定率100%。(○)
生徒の活動の活性化及び規律・規範の確立と働き方改革	(1) 成功体験による自己肯定感の育成と働き方改革 ア 生徒の活動拡充	(1) ア 1年生1学期中の全員入部制度により部活動への参加を勧める。 ・大会等で好成績を収めた部に対する支援、校内披露、对外広報に努める。 ・体育祭、文化祭等の生徒会行事への積極的な参加を促進する。 ・学校部活動方針(休養日等)の順守及び全校一斉退庁日の順守を推進する。	(1) ・体験入部を継続し部加入率60%以上。[56%] ・生徒向学校教育自己診断において「部活動は楽しい」70%以上。[66%] ・ホームページの部活動ニュースの更新35回以上。[19回] ・生徒向学校教育自己診断において「学校行事満足度」77%以上。[76%] ・節目ごとに重点化した清掃活動を行う。 ・時間外勤務の全教員の平均が27h未満。 [26h59m]	(1) ・体験入部は中断したが入部率59%。(○) ・生徒の学校教育自己診断で、「部活動は楽しい」74%で8%の増加。(○) ・ホームページの部活動ニュースの更新は14回と3分の2になった。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「学校行事が楽しい」84%で8%の増加。(○) ・清掃活動の重点化は継続したい。 ・時間外勤務平均、27h38m。(△)
	(2) 基本的生活習慣の確立と課題を抱えた生徒の支援体制強化 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	(2) ア 基本的生活習慣の基礎として、遅刻指導に引き続き取り組む。 ・生徒指導方針を生徒に明確に示し、全教職員で指導にあたることにより、規範意識の醸成に取り組む。	(2) ア 遅刻数年間2500件以下。[2533件] ・自転車マナー苦情15件以下。[27件] ・身だしなみ指導に積極的に取り組む。 ・生徒向学校教育自己診断において「本校の指導は納得できる」58%以上。[55%]	(2) ア 年間遅刻数、1443件。(◎) ・自転車マナー苦情13件。(○) ・マナーや身だしなみの指導は継続したい。 ・生徒の学校教育自己診断で「本校の指導は納得できる」57%と微増。(○)
	イ 関係機関との連携と相談・支援体制の充実	イ 様々な困難を抱える生徒等の指導は、合理的配慮を含め、保護者の理解を得ながら、関係教員が連携を密にして進める。 ・SCやSSWに加え、外部専門機関との連携も積極的に進め、「チーム学校」の実現をめざす。	イ 課題のある生徒のケース会議を頻繁に開催し、専門家のアドバイスや外部機関とも連携してチーム学校として対応すると共に、チームで対応した事例を、学期に1回、校内で共有する。 ・生徒向学校教育自己診断において「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」60%以上。 [58%]	イ 課題を抱える生徒のケース会議は、定期的に開催することができ、必要に応じて外部との連携も図れたが、事例の共有は年間1回で終わってしまった。(△) ・生徒の学校教育自己診断で「担任以外に相談できる先生がいる」62%で4%の増加。(○)
ウ 安全・安心な教育環境の構築	ウ LHR、特別活動を通して、お互いを認めあい、支え合う人間関係づくりを進める。	ウ 生徒向学校教育自己診断において「学校で、人権の大切さについて学ぶ機会が多い」70%以上。 [69%] ・府立人研のアンケートの分析を行う。	ウ 生徒の学校教育自己診断で「人権の大切さを学ぶ機会が多い」76%で7%の増加。(○) ・年度末のアンケートも分析してフィードバックの予定。(○)	
地域連携の推進	(1) 教育活動の積極的な発信と地域の取組みへの参加・貢献 ア 情報発信の充実	(1) ア ホームページ、学校説明会や中学校訪問を通じて積極的な広報活動・情報発信を行う。	(1) ア 魅力あるホームページづくりに努め、ブログの発信回数、180回以上。[123回] ・学校説明会を6回開催。[4回] ・中学校や塾等の訪問180校以上。[130校]	(1) ア ホームページの刷新やブログの発信に努めたが、発信は110回となっている。(△) ・学校説明会を対面で5回、オンライン1回、中学校訪問と塾訪問を150校実施。(○)
	イ 保護者との連携強化	イ ホームページやメールマガジン等の充実。	イ 保護者の学校教育自己診断において「本校のホームページを見たことがある」85%以上。[83%]	イ 保護者の学校教育自己診断で「ホームページを見たことがある」85%と微増。(○)
	ウ 地域連携の推進	ウ 生徒会・部活動による地域行事への参加など地域への貢献を一層進める。	ウ 生徒会・部活動等による地域行事への参加50回以上。[8回] ・生徒向学校教育自己診断において「教育活動を通じて地域の人々と関わる機会がある」55%以上。 [48%]	ウ 生徒の学校教育自己診断で「地域と関わる機会がある」50%と微増。(△)